

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.29 2011年9月20日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。夏の猛暑に耐えきれず、玄関前の鉢植えは枯れて茶色の葉をさらしたまま。大震災と放射能汚染に加え、洪水や台風直撃など、今年は災害続きです。政治経済や社会情勢も揺れ動き、不安材料に事欠きません。そんな中にも秋は着実に訪れ、先日の中秋の名月は快晴に恵まれて、屋上に敷いた蓐蔭に座り、クラスメンバーとお月見。天を仰ぎ、気持ちをリセットして、再度地上の事柄に向かいます。

「あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた月や星を見ますのに、人とは何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは」（詩篇8：3-4 a）

校長 関野祐二

● 励ましの連鎖

最後に夫婦でお会いして一ヶ月後に天へと駆け上った、神学校時代の恩師O先生の著作集が刊行され、最近出た第4巻の挟み込み冊子に拙文を載せていただきました。全文は買っていただくとして（出版社からの懇願）、結尾のみ引用します。「・・・神学生や卒業生を励ます側に立たされた今、耳の奥で「大牧師！」という大袈裟なことばが響く。今度は私が電話をかけまくる番。あの豪快さと奔放さは真似できないが、声かけと励ましが働き人を育てる。きっとそうだ」。牧会の孤独に悩まされていた頃、ときどきかかってくる電話がそんなだったのでした。ことば云々よりも、かけてきてくださること自体が励まし。当時のS校長も、よく遠方の地からメールをくださいます（メールなら距離は無関係ですが、それでも嬉し）。東京砂漠では想像もつかない、四季折々の写真を添えて。そういえばこの間は、トマトとミョウガの写真でしたっけ。

いろいろなご用で教会や集会に出かける折、卒業生にお会いすることも度々あります。赤ペンの古傷を思い出させるのは気の毒ですが、冷やかし半分に思い出を語っても、本人は意外と平気（痛がゆいという感じ?）。卒業なき我が身からすれば、現場で奮闘する姿はまぶしすぎるほど。祈るような気持ちで（実際に祈りつつ）その場を去ります。そして、電話は性に合わなくても、メールや手紙には必ず返事をするよう心がけています。受けてきた励ましが連鎖するようにと。

● 水星を最初に見つけたのは？

請われて年3回ほど、「星を見る会」を地元小学校で開催しています（家族や神学生のお手伝いあり）。7月の目玉は夕空の水星でしたが、低空の雲に阻まれ、特別許可の小学校屋上で固唾を呑んだ数十名の小学生たちはがっかり。翌々日、今度は低空まで抜けるような快晴です。リベンジは神学校で、と聖書解釈学クラス途中で皆を屋上へせき立て、いざ水星搜索（その様子は「聖契神学校ニュース」112号裏表紙に）。太陽系最内周の水星はいつも太陽の近くに見えるため、見られるチャンスはごくわずか（かのコペルニクスは生涯一度も見られなかったとか）。だからこの

日を狙ったのですが、予想以上に夕暮れが遅く、双眼鏡で凝視してもなかなか水星は見つかりません（こういう時、焦りますよね）。チャペル開始時刻が迫り、もうダメかなと思い始めたその矢先、「あった！」の雄叫びは、なんと肉眼で捜していたK兄でした。あわてて双眼鏡をそこに向けると、夕焼けのグラデーションをバックに、キラキラ光る星が見えるではありませんか。「宇宙は第二の聖書」（外典じゃないよ）とはガリレオのことばですが、誰かが大空の中から本物を見つけ、皆に分かち合うのは、聖書の宝を掘り当てて共有する解釈のわざへと昇華します。最初に捜し当てるのが、熟練者や高度なツールを備えた人とは限らないのも同じ。さて、来年の5月21日早朝は東京でも好条件の金環日食。授業前、きっとこの学び舎の広い屋上が賑わうでしょうね。

● 採点もまた楽し

溜めてはいけないとわかっている、溜まってしまうのがレポートの採点（A先生は授業直後に教員室で採点してますよ。愛のこもったその丁寧なコメントは比類なし。教師の鑑！）。特にわが解釈学は毎週の解釈演習説教レポートが15人分もあるので、ただでさえ翌週に返却するのが困難なのです（日本語も一語一句直しますからねっ！）。6月、7月と大きな外部奉仕が続き、岩手ボランティアから帰宅した8月中旬には7週分の負債（かけ算はしない方が平安）。夏休み明けに教師が雲隠れするわけにもいかず、意を決して昼夜の採点苦行に突入しました。玉石混淆？ ベルトコンベアーの流れ作業？ いいえ、それぞれが渾身の力でみことばに取り組んだ説教原稿ですから、（その強度はともあれ）読む者の心を動かす力があります。同じ箇所の説教を15回も読むので、いやがおうにも（！？）みことばが迫ってくるのです。負債の最後、使徒12章の原稿を8月末に採点しつつ、絶望的状况でペテロのため熱心に祈る教会の祈りをわが祈りとしよう、と決意する自分がいました。もしや、絶望的レポートのとりなしを含んでいるかも。

● 今年もオープンキャンパス！

見せるほどのものもないけれど、ぜひ見に来てほしいオープンキャンパス。今年も10月29日（土）に計画しています。今回は、聖契神学校の誇る（？）女性教師二人のオンステージ。午前のチャペルは霊性のY先生が、献身者に求められる（この神学校で身につけられる）霊性という角度から語ってくださいます（そうでしたよね、Y先生）。公開授業はその「霊性の神学」と、わが「新約緒論」。いやしとシゴキの組み合わせ。お昼の時間はいつものように、学生会が歓迎昼食会をアレンジしてくれます。誰がどんな証しをするかが毎年の楽しみ（妙な着ぐるみがまた出て来るのか、ちょっと心配。せめて昨年玉簾程度に）。午後はキリスト教教育の熱血Su先生による講演会です。少々刺激的なタイトルは別紙参照。授業のユニークさはピカイチなので、講演会も何が飛び出すか期待してくださいね（何も出ないんですか、Su先生）。

ウワサによると、一般の学校では入学説明会や文化祭の時、在校生はちゃんとするようお達しがあるそう。わが神学校はそんなこと全くなしのありのまま（ちゃんとしてと言っても無理。でも掃除だけはしてね）。学生と間違えられるので（実績有）、せめてネクタイだけはしようかな。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 2名の新規聴講生を加え、在校生72名で10月10日より始まる後期の学び。教職員15名の働き。神学校運営が支えられ、主の良き器を養成できるように。
- ・ 10月29日のオープンキャンパスに多くの来校者が訪れ、良き紹介の時となるように。